

	中期経営目標【3年間】	短期経営目標【1年目】	目標達成のための手立て	評価項目<評価方法>	評価	最終評価
確かな学力	基礎・基本の定着 及び課題発見・解決学習の充実 ＜一中におけるコンピテンシー育成＞	<ul style="list-style-type: none"> <li>全ての教員が、「一中におけるコンピテンシー」育成のための「すべ」と「手立て」を授業で実践・検証する。</li> <li>全ての教員が、「一中におけるコンピテンシー」を視野に入れた単元開発を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全ての教員が各教科の授業で「一中におけるコンピテンシー」育成のための「すべ」と「手立て」を実践・検証する。また、校内研修で「すべ」と「手立て」の内容をブラッシュアップする。</li> <li>全ての教員が11月22日（水）の公開研に向けて単元開発を行う。単元開発は6つのグループ内で連携・協議し、1つに絞り本校のHPにアップする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員アンケート（「各教科の授業において『すべ』と『手立て』を実践・検証できた」と肯定的な回答をする教員の割合が100%＜年度末等 教員アンケート＞）及び成果物（単元開発した資料）</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>1学期中に全ての教員が、「一中におけるコンピテンシー」育成のための「すべ」と「手立て」を授業で実践・検証することができた。しかし、取り組みの報告には「『一中におけるコンピテンシー』の重要性はよく分かりますが、『すべ』と『手立て』についてはいまだに理解が不十分です。」等の記述が多く見られた。また、その後継続的に実践・検証を行うのは一部の教員にとどまってしまい、「すべ」と「手立て」の意義・概念が全教員に浸透しているとは言い難い状況である。「教科の本質」と「一中におけるコンピテンシー」の関係性の理解を深めることで、全教員が前向きに「すべ」と「手立て」について考えていける環境作りが必要である。</li> <li>公開研の指導案作りを通して、「一中におけるコンピテンシー」の指導案の型を作ることができた。また、それらをHPにアップすることで、本校の取り組みの周知ができた。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>「書く力」「伝え合う力」を高める指導及び家庭学習の定着のより一層の充実を図り、自分の考え等を分かりやすく書き、伝え合うことのできる生徒、また、自ら学ぶ力を身に付けた生徒を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「めあて」と「まとめ」の整合性を図り、「振り返り」を充実させる。</li> <li>書いたことを伝え合う場面（ペアやグループでの学習活動等）を充実させる。</li> <li>各学年の家庭学習目標時間（学年×0.5+1時間）に応じて、宿題の出し方（量、期限等）を教科担任間で連携・調整する。その状況を担任も確認し、必要に応じて保護者連携を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「基礎・基本」定着状況調査(6月)の平均通過率 60%以上の生徒 80%以上、30%未満の生徒を0</li> <li>「自分の考え等を、ノートに分かりやすく書いている」「ペアやグループでの学習活動等で、分かりやすく伝えている」生徒 85%以上&lt;生徒アンケート&gt; (H27:83%)</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標を達成することはできなかった。通過率 30%以下の生徒には、個別の支援等の学習の手立てが必要である。また、タイプⅡに対応できるように、基礎・基本の学力をつけるとともに、高等学校の入試問題にも対応できるように応用力もつけていく必要がある。</li> <li>「自分の考え等を、ノートに分かりやすく書いている」は86%、「ペアやグループでの学習活動等で、分かりやすく伝えている」は78%の肯定的評価だった。授業者が意識して友達と関わり合いながら学習ができる場を設定する必要がある。「一中におけるコンピテンシー」育成のためにも、まずはペアやグループでの学習活動を充実させる必要がある。</li> </ul>
豊かな心	豊かな人間性の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒指導上の諸課題の把握と対応を、迅速かつ組織的に進める。</li> <li>生徒指導と生徒会活動との連鎖的な取組・指導を工夫し、規律正しく生活できる生徒を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>遅刻・欠席が連続する生徒を日常的に把握し、組織的な対応を迅速かつ段階的に行う。（生徒指導担当者会、学年会、企画委員会などでの交流・検討）</li> <li>「時間・あいさつ・そうじ」のレベルアップを図る取組・指導・評価を行う。（生徒会活動と連動させながら、期間を決めて行う）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「授業・掃除・学活等の開始時間を守っている」と肯定的な回答をする生徒 90%以上かつ「4-よく当てはまる」と回答する生徒 70%&lt;生徒アンケート&gt;</li> <li>「誰にでも、自分からあいさつをしている」と肯定的な回答をする生徒 90%以上かつ「4-よく当てはまる」と回答する生徒 60%&lt;生徒アンケート&gt;</li> <li>「本気で（時間いっぱい、ていねいに）掃除をしている」と肯定的な回答をする生徒 90%以上かつ「4-よく当てはまる」と回答する生徒 50%&lt;生徒アンケート&gt;</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>12月に実施した生徒アンケートにおいて、次の3つの質問①「授業・掃除・学活等の開始時間を守っている」②「誰にでも、自分からあいさつをしている」③「本気で（時間いっぱい、ていねいに）掃除をしている」に対して肯定的な回答をした生徒は90%以上（①97%②93%③93%）であり、目標を上回ることができた。しかしながら、「4-よく当てはまる」と回答した生徒は、①78%②53%③41%と目標を1つしか上回ることができなかった。</li> <li>生徒の実態は規律正しく生活できており、全体の生活レベルは上がっているように感じる。</li> <li>また、生徒会の活動とも連動させた取組も継続できている。</li> <li>今後は、今の生活指導を継続させながら『評価・ふり返り』の部分を実践させることにより、生徒に達成感や充実感を味わせ、自己肯定感の育成にも努めていきたい。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>認め合い・支え合える学級集団づくりを進めるとともに、生徒主体の自治的活動をより充実させ、思いやりの心やリーダー性を発揮できる生徒を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Q Uアンケートを年間2回行い、データを参考にしながら学級集団づくりを進める。（分析結果等を夏季校内研修や学年会で交流し、データを活用する）</li> <li>月別生徒会目標を具現化する。（活動や点検・評価活動等を毎月の各種委員会で協議し、計画的に行う）</li> <li>生徒会主体の全校朝会を定例化する。（月1回程度し、目標や課題の共有化を図る）</li> <li>リーダー指導・育成を進める。（学校・生徒会行事や執行部会・部長会・小中リーダー研修等を活用する）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「自分たちのクラスは、互いの良さや足りないところを認め合い、支え合おうとしている」生徒 90%以上</li> <li>「毎月の生徒会目標を意識して生活している」生徒 70%以上</li> <li>「行事（体育大会・文化祭など）や生徒会活動（執行部・各種委員会など）、学級活動（係・班など）、部活動で、自分の役割を果たそうとしている」と肯定的な回答をする生徒 90%以上かつ「4-よく当てはまる」と回答する生徒 70%&lt;生徒アンケート&gt;</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>12月に実施した生徒アンケートにおいて、「自分たちのクラスは、互いの良さや足りないところを認め合い、支え合おうとしている」に対して肯定的な回答をした生徒は88%であり、目標には2%届かなかった。しかし、①「毎月の生徒会目標を意識して生活している」②「行事（体育大会・文化祭など）や生徒会活動（執行部・各種委員会など）、学級活動（係・班など）、部活動で、自分の役割を果たそうとしている」に対して肯定的な回答をした生徒は、①70%②96%であり、目標を上回った。②に関しては、「4-よく当てはまる」と回答した生徒は67%であり、これは目標に3%届かなかった。</li> <li>今後は、生徒会活動や学校行事の取組を通して生徒たちに目標や課題、役割等を意識化させ、評価する取組が必要である。また、教員間での意識統一もしっかりとしていきたい。</li> </ul>
健やかな体	生きていく基礎・基本となる体力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>体育授業や部活動・委員会活動等を通して、「体力づくり」「生活リズムの保持・向上」に係る取組・指導を連鎖的・継続的に行い、全身持久力を中心にバランスのとれた体力を身に付けた生徒を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体育授業の準備・補強運動に体力を高める運動（特に全身持久力）を計画的に取り入れる。</li> <li>「体力づくり」「生活リズムの保持・向上」に係る取組（部活動指導強化週間、生活リズム向上キャンペーン、駅伝大会等）を毎学期1回企画・実施・評価する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新体力テスト（①5～6月、②11月～2月）の「全身持久力」の項目において、各学年男女で全国平均・県平均の90%以上</li> <li>「生活リズムをよりよくすることを意識しながら生活している」と肯定的な回答をする生徒 70%以上&lt;生徒アンケート&gt;</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>新体力テストにおいて、全国平均・県平均の90%以上を達成した。2学年については、男女とも全国平均を越えた。授業中の5分間走で体力向上が図れているので、次年度も継続して実施する。</li> <li>12月に実施した生徒アンケートにおいて、「生活リズムをよりよくすることを意識しながら生活している」と肯定的な回答をする生徒が85%であった。なかでも1年生は88%の生徒が肯定的評価をしていたことから、生活改善意識の高さが伺える。次年度は、2、3学年の「体力づくり」「生活リズムの保持・向上」についての意識を向上できるように、取り組みを行っていく。</li> </ul>